

## 3

## 木ノ下智恵子 さん



木ノ下智恵子 (SIAFコミティーメンバー/札幌文化芸術交流センター SCARTS 事業統括ディレクター)

2019年から、SIAF事務局への助言機関であるSIAFコミティーメンバー。2021年から札幌文化芸術交流センター SCARTSの事業統括ディレクターであり、SIAF2024のSCARTS会場のキュレーターを務める。

### トーク内容

- 札幌市民交流プラザ内のアートセンター、札幌文化芸術交流センター SCARTS
- Before SIAF2024: SCARTSは2018年オープン、当時から木ノ下さんはSIAFコミティーメンバー
- At SIAF2024: 企画とチームづくり、コミュニケーション
- たくさんの連携先と、どうコミュニケーションを重ねて調整していくか
- 予想できなかった面白いことを実現するために、好奇心と信頼関係を大事に



インタビュー全編はYouTubeでご覧いただけます。

<https://youtu.be/qpP4hovnTm8>





今回 SCARTS 会場では、多くの外部パートナーと連携していましたが、次回 SIAF に参加するとしたらどのようなことを生かしていきたいですか？

SIAF2024においては、SCARTSは「共創」「コラボレーション」を重視する場として「ビジターセンター」という企画を展開しました。もし他の展示会場と同様に、自分たちでテーマを決めて、展覧会やプロジェクトをキュレーションするとしても、私はきっと今回のように外部の方々の巻き込むやり方を採用するのではないかと考えています。

SCARTSは正直、展覧会をおこなう空間としては圧倒的に難しい空間です。壁がなかったり、人が絶えず通り抜けたり、多種多様なイベントが行われていたりします。でもせっかくなら、知恵と創意工夫によって面白いできごとが起こる場所にしていきたい。そのためには、「こういう場所とテーマがあるんだけど、みなさんどうですか」と、今回同様に連携できる外部パートナーとコミュニケーションを重ねて、一緒に新しいものを生み出していくようなやり方で進めていくと思います。

プロジェクトのパートナーに限らず、SIAF2024では、2階にあるSCARTSスタジオで展開した「多目的室」が本当に多目的に使われて、思った以上にアクティブになったり、アイデアや感想を集める体験型の展示にたくさんの人が参加してくれたりしました。そういうことも含めて、いろんな人たちの知恵を借りて、一緒につくっていったほうがいいんじゃないかなと私は思います。

その中で起こりうる問題として、担当者が同時並行で複数のプロジェクトを進めているなか、意図をすり合わせるコミュニケーションが難しく、行き違ってしまうことなどがあります。私はプロジェクトにおける摩擦はつきもので、目標を達成するために言うべきことを言うという点で、遠慮する必要はないと思っています（もちろん人格否定などはNGです）。だからこそ「言っても大丈夫」と思える関係性、信頼関係をどう築いていけるかが大事です。

そのため「定期的会う」「とりあえず行って直接話してみる」といったことも、プロジェクトにおいてとても大切だと思うんです。たとえばSCARTSと芸術祭事務局は徒歩5分程度のわずかな距離ですが、メール／メッセージベースのやりとりだと、細かい部分が伝わりきらなくて意図がすれ違ってしまいうこともある。そういう工夫や関係構築をもっと早くからやっておけたらよかった、というのがSIAF2024の反省点のひとつです。

どちらの役割とかじゃなくて、一緒にそこを考えていけるコミュニケーションの機会を持つこと。なんて「タイパ」「コスパ」の悪いことをやってるんだろうかと思うんですけど（笑）。でもやっぱり自分たちだけでは成し得ないような、次元の違うプロジェクトになることを、好奇心を持って面白がれることが大事かなと思います。

---